

東南アジアの食品包装材料・
日本とアジアのバリアー包装材料
実態と将来展望 2023-2025

Sample

2. 東南アジア主要国の食品用包装材料市場動向

2.1 主要包装用フィルムの動向

主要 5 か国の代表的な食品包装用フィルムの国内需要量推移を見ると次のように推定できる。

表 1-2 主要 5 か国の主要包装用フィルム別国内需要量推移推定

素材別	国別	2022 年	2023 年		2024 年見込	
		トン	トン	前年比	トン	前年比
PET	インドネシア					
	タイ					
	インド					
	ベトナム					
	マレーシア					
ナイロン	インドネシア					
	タイ					
	インド					
	ベトナム					
	マレーシア					
OPP	インドネシア					
	タイ					
	インド					
	ベトナム					
	マレーシア					
CPP	インドネシア					
	タイ					
	インド					
	ベトナム					
	マレーシア			不明		

(S&T 出版推定)

2.2 主要バリアー包装フィルムの動向

東南アジア各国ではバリアー包装と言えばほぼアルミ系一辺倒であった。しかしここ 5～6 年の間に透明バリアーフィルムが徐々に立ち上がってきている。メジャーなグローバルエンドユーザーあるいは日系エンドユーザーが、食品メーカーとして多数進出しており、これらのエンドユーザーが環境的見地なども視野に入れ、脱アルミを推し進め始めている。ただその進捗スピードは 2024 年現在でもあまり急速な浸透とは言えない。今なおアルミ蒸着フィルムが圧倒的な構成比を持つ。

表 1-3 主要 5 か国におけるバリアーフィルムの国別タイプ別需要量推移推定

国別	タイプ別	2023 年		2024 年見込	
		トン	千トン	トン	構成比
インドネシア	PVDC-OPP				
	PVDC-PET				
	PVDC フィルム				
	EVOH 系フィルム				
	透明蒸着 PET				
	VM-PET				
	VM-CPP				
	VM-OPP				
	合計				
タイ	PVDC-OPP				
	PVDC-PET				
	PVDC サロファン				
	PVDC フィルム				
	透明蒸着 PET				
	VM-PET				
	VM-CPP				
	VM-OPP				
	合計				

(続く)

第2章 東南アジア主要国の食品包装フィルム、ボトル用 PET 樹脂の供給動向

1. インドネシア

1. 1 PET フィルムのサプライヤー別生産能力推移

インドネシアにおける包装用 PET フィルムのサプライヤー別生産能力は、次のようであると推定する。

表 2-1 PET フィルムのサプライヤー別生産能力

サプライヤー	系列	能力(トン／年)
PT.Argha Karya Prima Industry		
PT.Trias Sentosa		
PT.MC.PET Film Indonesia		
PT.Indonesia Teijin Dupont Films		
Kolon INA		
Indopoly Swakarsa IND.		
合計		

(S&T 出版推定)

1. 2 PET フィルムの国内市場規模推移と見込

表 2-2 PET フィルムの国内市場規模推移と見込(トン／年、%)

	2019 年		2020 年		2021 年	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
生産能力	106,000	100.0	106,000	100.0	106,000	100.0
生産量	98,000	102.1	90,000	91.8	90,000	100.0
稼働率	88.8		88.9		88.9	
内需	87,000	103.6	80,000	91.9	80,000	100.0

(続く)

	2022 年		2023 年		2024 年見込	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
生産能力						
生産量						
稼働率						
内需						

(S&T 出版推定)

食品包装用に PET フィルムを使用する場合、インドネシア市場では特に多いのは菓子や乾燥食品の外包装である。

また最近では菓子の個包装や粉末食品の包材としての需要増加が続いている。インドネシア人は、中国人や他の東南アジアの人々同様、キラキラしているパッケージを好む傾向があり、そのため PET フィルムも「PET アルミ蒸着フィルム(VM-PET フィルム)」に加工されるケースが目立っている。

【スナック菓子の採用例】

OPP(20)/EMA(17)/VM-PET(12)/PE(25)

【ビスケットの個包装の採用例】

PET(12)/AL(7)/PE(25)

【粉末食品(インスタントコーヒー)の採用例】

PET(12)/PE(15)/AL(7)/PE(15)/LLDPE(25)

【粉末食品(ビスケット)の採用例】

VM-PET(12)/PE(30)

5. バリヤー包装材料の将来展望

日本とアジアのバリヤーフィルム市場の将来展望を国別・バリヤーフィルムタイプ別に見通す。現状市場動向同様、一定の市場規模を有するバリヤーフィルムのタイプは大別して 6 タイプあるのは展望篇でも同様である。また、それ以外の「その他バリヤーフィルム」も、日本市場に特化したまま推移していると推定した。各国のうち中国と台湾について、『中国・台湾』の一括表記としたのも現状分析編同様である。

5.1 アルミ蒸着フィルム

アルミ蒸着フィルムは、アジア、特に東南アジアにおいては今後もバリヤーフィルムの圧倒的な主流であり続けると言える。東南アジアや中国での「キラキラ色」の需要は衰えず継続し、しかも「バリヤー性が重要なのではなく、キラキラしていることが重要」なものの需要も増える。ベースフィルムとしては引き続き「PET」「CPP」「OPP」「PVC」「LLDPE」「ONY」で推移する。

日本市場はベースフィルムとして「PET」「CPP」は引き続き年間 10,000 トンを大きく上回る需要を形成している。しかもどちらも横ばい～微増推移となる。

日本市場では圧倒的トップシェアの東レフィルム・工業以外には、需要規模を落としている。東レフィルム加工の市場占有率は 50% とも言われる。

下位メーカーの中には今後アルミ蒸着フィルム市場から撤退していくメーカーも出てくること想定される。安価な輸入フィルムが浸透し、利益の取れなくなった業界構造の中で、競争力を維持していくことが厳しくなるからである。

中国・台湾市場では、ベースフィルムとして「PET」「CPP」「OPP」「PVC」がある。こちらも日本同様 PET と CPP ベースフィルムが大きな市場を形成している。

韓国市場は今後もベースフィルムとして「PET」「CPP」「OPP」の 3 タイプでの推移。その中でも市場の中心は CPP ベース品であり、2023 年は月間 1,267 トン規模になっている。今後は年率数%程度の増加推移が見込まれている。

タイ市場は今後もベースフィルムとして「PET」「CPP」「OPP」が流通する見込。特に PET ベース品が今後も需要の中心である。特に VM-PET は今後も堅調推移すると見られている。

インドネシア市場ではベースフィルムとして「PET」「CPP」「OPP」が流通している。インドネシアの場合は内需として最も多いのは CPP ベース品であり、2023 年で年間 90,000 トンの需要量となっている。そして、今後の伸び率を見ても好調推移が見込まれる。

ベトナム市場では今後もベースフィルムとして「PET」「CPP」「OPP」の流通が継続する。ベースフ

フィルム別では 2023 年までは PET 品が最も多く市場を獲得してきた。それは今後も変わらず、VM-PET の市場規模は好調推移が期待される。

インド市場では今後もベースフィルムとして「PET」「CPP」「OPP」が流通。ベースフィルム別では PET ベース品が最も多く、2023 年では年間 64,000 トン規模であった。今後は年率 3～4%増程度の伸びが見込まれている。

表 1-16 日本とアジアのアルミ蒸着フィルムの素材別需要量展望

		2023 年	2024 年見込		2025 年見通	
		t/年	t/年	構成比%	t/年	構成比%
日本	VM-PET	12,500	12,700		12,900	40.4
	VM-CPP					
	VM-NY					
	VM-OPP					
	VM-PE					
	計					
中国・台湾	VM-PET					
	VM-CPP					
	VM-OPP					
	VM-PVC					
	計					
韓国	VM-PET					
	VM-CPP					
	VM-OPP					
	計					
タイ	VM-PET					
	VM-CPP					
	VM-OPP					
	計	66,000	67,000	100.0	68,100	100.0

(続く)

表 1-20 日本とアジアの透明蒸着フィルム国別市場規模展望

		2023 年	2024 年見込		2025 年見通	
		t／年	t／年	構成比%	t／年	構成比%
日本	PET					-
	ONY					-
	計					-
中国・台湾	PET					-
	ONY					-
	計					-
韓国	PET					-
	ONY					-
	計					-
タイ	PET					-
	ONY					-
	計					-
インドネシア	PET					-
	ONY					-
	計					-
ベトナム	PET					-
	ONY					-
	計					-
インド	PET					-
	ONY					-
	計					-

(S&T 出版推定)

第3章 アジア主要国別バリアー包装材料市場動向と将来展望

1. 中国・台湾のバリアー包装材料市場の動向と将来展望

中国・台湾におけるバリアーフィルムのタイプ分類としては大別して「アルミ蒸着フィルム(VM-PET,VM-CPP,VM-OPP,VM-PVC)」「PVDC(ポリ塩化ビニリデン)コートフィルム(PVDC-OPP,PVDC-NY,PVDC-PET,PVDC-PE)」「PVDC 多層フィルム」「EVOH 系多層フィルム」「透明蒸着フィルム(透明蒸着 PET)」「ハイブリッドバリアーコートフィルム」などがある。

表 3-1 中国・台湾におけるバリアー包装材料市場の動向と将来展望

バリアー・タイプ	2021 年	2022 年		2023 年	
	t/年	t/年	構成比	前年比	前年比
VM-PET					
VM-CPP					
VM-OPP					
VM-PVC					
PVDC-OPP					
PVDC-PET					
PVDC-NY					
PVDC-PE					
PVDC 多層					
EVOH 多層					
透明蒸着 PET					
透明蒸着 NY					
ハイブリッド					
中国・台湾市場・合計					

(S&T 出版推定)

また、中国・台湾市場におけるバリアーフィルムの市場展望としては、表 3-2 のように推移すると推定する。

表 3-2 中国・台湾におけるバリアー包装材料市場・今後の展望マトリックス

バリアー・タイプ	2023 年	2024 年見込		2025 年見通		
	t／年	t／年	構成比	t／年	構成比	前年比
VM-PET						
VM-CPP						
VM-OPP						
VM-PVC						
PVDC-OPP						
PVDC-PET						
PVDC-NY						
PVDC-PE						
PVDC 多層						
EVOH 多層						
透明蒸着 PET						
透明蒸着 NY						
ハイブリッド						
中国・台湾市場合計						

(S&T 出版推定)

表 3-94 インドネシアにおけるバリアー包装材料市場・今後の展望マトリックス

バリアー・タイプ	2023 年	2024 年見込		2025 年見通		
	t/年	t/年	構成比	t/年	構成比	前年比
VM-PET						
VM-CPP						
VM-OPP						
PVDC-OPP						
PVDC-PET						
PVDC フィルム						
EVOH 系多層						
透明蒸着 PET						
インドネシア市場・合計						

(S&T 出版推定)

4. 1 インドネシアにおけるアルミ蒸着フィルム市場の動向と今後の展望

インドネシアにおけるアルミ蒸着フィルム市場は、現行も伸長を続けている。PET アルミ蒸着フィルム、CPP アルミ蒸着フィルム、OPP アルミ蒸着フィルム共に堅調な推移となっている。

4.1.1 PET アルミ蒸着フィルム

表 3-95 PET アルミ蒸着フィルムの用途別需要実績

用途別	2021 年	2022 年		2023 年		
	t/年	t/年	構成比	t/年	構成比	前年比
コーヒー						
粉ミルク						
焼菓子						
チョコレート						
その他食品						
合計						

(S&T 出版推定)

表 3-96 PET アルミ蒸着フィルムの用途別需要予測

用途別	2023 年	2024 年見込		2025 年見通		
	t/年	t/年	構成比	t/年	構成比	前年比
コーヒー						
粉ミルク						
焼菓子						
チョコレート						
その他食品						
合計						

(S&T 出版推定)

また、PET アルミ蒸着フィルムのサプライヤー別の動向は以下の通り。Trias Sentosa がトップシェアとなっている。

表 3-97 PET アルミ蒸着フィルムのサプライヤー別需要実績

サプライヤー	2021 年	2022 年	2023 年	
	実績	実績	実績	実績
Trias Sentosa				
Bhineka				
Indopoly				
その他				
合計				

(S&T 出版推定)

今後の展望としては次ページのように予測される。